100 LET ČESKÉHO DESIGNU
100 YEARS OF CZECH DESIGN
チェコ·デザイン 100年の旅

会期·会場他

会期	2020年3月6日［金］–~~5月10日［日］~~ 7月5日［日］ *3月6日(金)–5月25日(月)臨時休館
会場	京都国立近代美術館［岡崎公園内］
開館時間	9時30分–17時~~（金曜、土曜は20時まで）~~ただし、入館は閉館の30分前まで
休館日	毎週月曜日~~（ただし5月4日［月·祝］は開館）~~
主催	京都国立近代美術館、読売新聞社、チェコ国立プラハ工芸美術館
後援	駐日チェコ共和国大使館、チェコセンター東京
協賛	ルフトハンザ カーゴ AG
企画協力	株式会社イデッフ

観覧料　一般1,400（1,200）円、大学生1,000（800）円、高校生500（300）円
＊（　）内は、前売と~~20名以上の~~団体料金
＊中学生以下、心身に障がいがある方とその付添者1名は無料（要証明）
＊前売券の発売期間は1月10日から3月5日まで（会期中は当日券のみ発売）
＊本展の観覧券でコレクション展もご覧いただけます

ごあいさつ

このたび、京都国立近代美術館は、2020年3月6日［金］から~~5月10日~~［日］まで「チェコ・デザイン100年の旅」展を開催いたします。
7月5日

芸術家アルフォンス·ミュシャ（ムハ）が生まれ、またフランス絵画から影響を受けたチェコ·キュビズムと呼ばれる独自の様式を生み出したチェコ。さらに、アニメやおもちゃに至るまで、20世紀のチェコは世界を魅了する数々のデザインを生み出した国として知られています。しかし、その100年を振り返れば、戦争や占領そして政変といった刻々と変わる国家の情勢にデザイナーたちが翻弄された世紀でもありました。

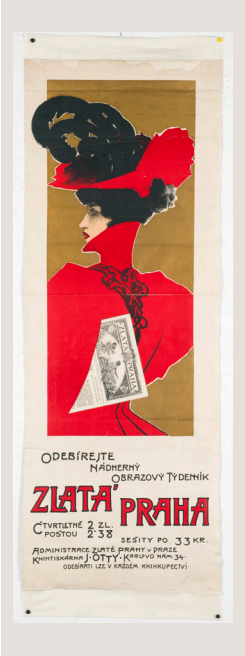
本展はチェコ・デザインの100年を、家具やプロダクト、ポスターなど、チェコ国立プラハ工芸美術館所蔵の作品を中心とした約250点の作品により紹介します。歴史軸に沿って紹介される作品は、チェコひいてはヨーロッパの情勢が20世紀のデザインに与えた影響の、一断面を示すものとなるでしょう。

また京都国立近代美術館では、本展の関連展示として、大阪中之島美術館準備室のご協力により、同美術館所蔵のチェコの書籍をブックデザインの観点から紹介します。

1
1900年：アール・ヌーヴォー 生命力と自然のかたち

19世紀後半から20世紀初頭にかけて最も特徴的な装飾の様式といえば、ヨーロッパのアール・ヌーヴォー様式でしょう。生き生きとした自然界のイメージや仕組みを源泉とした様式で、建築と工芸に全く新しい局面をもたらしました。たびたび登場する繁栄、成長、開花のモチーフは、当時の若者の熱狂や、解放を求める動きと呼応して、さまざまな商品、建築、インテリア、ファッション、本の装丁、広告に用いられていきました。

また新しい素材による視覚的効果を用いて、アール・ヌーヴォーは美術工芸品だけでなく工場で作られる日用品にも見られるようになっていきます。なかでも、最も成功したのはアルフォンス・ミュシャ（ムハ）で、彼はアール・ヌーヴォー様式の装飾を独自のコンセプトに作り替え、並外れた人気を博していきます。



ヴィクトル・オリヴァ
ポスター「週刊誌 黄金のプラハ」
1898年
チェコ国立プラハ工芸美術館

2
1910－14年：チェコ・キュビスム 幾何学的形態からキュビスムへ

チェコではアール・ヌーヴォーの影響が長く続くなか、幾何学的な形に単純化した独自の様式も生み出していきます。この変化のきっかけとなったのが、1905年頃にはすでに存在感を発揮していたオーストリアの建築家オットー・ワーグナーの生徒によるウィーン分離派の幾何学的な作品と、ウィーン工房の影響を受けて制作された工芸品の存在でした。幾何学への志向が表われたのは、まず本の装丁とグラフィック・デザインにおいてでした。

これは、ある意味キュビスムの前兆として捉えられており、応用芸術や建築の形にまで影響を及ぼしたチェコ・キュビズムと呼ばれ、ヨーロッパでは他に類を見ない様式を生み出します。このような芸術的な発展は第一次世界大戦によって中断されたものの、キュビスムの遺産は、ロンド（円弧の）・キュビスムの装飾様式や、グラフィック・デザインや本の装丁などに受け継がれていきました。

パヴェル・ヤナーク
クリスタル（結晶）型小物入れ
1911年
チェコ国立プラハ工芸美術館

3
1920年代：アール・デコの時代

1918年に独立し中欧の新興国であったチェコスロヴァキアの装飾様式においても、民族芸術と地方の伝統が前面に押し出されていきました。

幾何学的形態と抽象的単純化を民族的な要素と結び付ける典型的なアール・デコの装飾が、あらゆる種類の工芸品や既製の工業製品に広く用いられる、1920年代の潮流のなかで、チェコスロヴァキアのアール・デコ作品は、1925年にパリで開催された現代装飾美術・産業美術国際博覧会（通称、アール・デコ博）で紹介され成功を収めました。両大戦間の時代にうまれた国際的な装飾様式にアール・デコという名を与えることになる博覧会で、チェコ人は初めて独立国として展示を行い、フランスに次いで最も多くのメダルを獲得しました。

アレクサンデル・ヴラジミール・フルスカ
ポスター「バランドフ・テラス」
1932年
チェコ国立プラハ工芸美術館

4
1930年代：シンプルなかたちと機能性

機能主義の理念は、1920年代に徐々に広がりを見せはじめます。少量生産である手工芸品にとって代わり標準化された工業製品が普及しました。流行の変化によって製品寿命を短くする装飾から解放された機能的な形が求められ、それとともにデザインと素材の品質、そして人間工学および衛生的要求の充足が図られはじめます。

チェコスロヴァキアの実用品のデザインにおいて、機能主義の原則を実現する起点となったのは、住居に関する啓蒙活動や生産販売を行っていた組織「美しい部屋」（クラースナー・イズバ）でした。この組織が注力した工業生産の方向づけを行ったのは1929年以降「美しい部屋」のアートディレクターを務めた中心デザイナーの一人、ラジスラフ・ストナルです。このようなデザイナーと産業との結びつきと素材の革新により、食卓を洗練されたものにする多様な食器セットなどが作られていきます。

フランチシェク・ミーシェク
カフェモカセット
1928年
チェコ国立プラハ工芸美術館

5
1940年代：有機的フォルムと天然素材

1939年以降のボヘミア・モラヴィア保護領時代、そして1940年代前半からの戦争は、当然デザインも無関係ではありませんでした。民族文化が脅かされたことにより、人々は民族の伝統とフォークロアに傾倒するようになり、またそれは作家が制作する際に用いる素材にも直接反映されました。藁、植物繊維、木などの忘れられていた天然素材が再発見されたのです。しかし、こうした素材を使わせたことは愛国感情という理由だけではなく、戦時では適切な材料がまったく手に入らないというきわめて現実的な理由もありました。

戦後の発展に明るい兆しが見えはじめ、産業の復興の現場では芸術家の力を借りようと努力していましたが、1948年の共産党クーデター後に続く政治の展開により、チェコスロヴァキアのデザインの発展は、政治的にも抑圧されていくことになります。

オットー・エケルト
小鉢
1940年代
チェコ国立プラハ工芸美術館

6
1950–60年代：日常生活と応用美術の解放

1940年代末に起こった政治的転換は、続く1950年代においてデザインや建築に色濃く影響を与えました。1950年代前半に奨励されたのは、ソビエト由来の歴史的様式である社会主義リアリズムであり、歴史ある形態や民族的モチーフが用いられていきます。1950年後半頃からそうした状況は緩和し始め、芸術家はどのような様式で制作するかについて厳格に要求されることもなくなりました。同時に西側の動向にも目を向けるようになり、国内では消費産業に注目が集まるようになり、チェコスロヴァキアとしてくいつかの重要な海外展にも出展した。1960年代にはいると、オプアート、ポップアート、サイケデリックなどの視覚的な影響がデザインに見られるようになります。

ヤロスラフ・フランチシェク・コフ
チェゼタ・スクーター「501型」
1957年
個人蔵

7
1970–80年代：生活水準の見直しからポストモダンへ

1960年代の創造性の高まりは1968年に終焉を余儀なくされました。ワルシャワ条約機構軍の侵攻によって、世界へ開かれた扉はその後20年間閉ざされてしまったのです。西ヨーロッパとの接触が完全に断たれることはありませんでしたが、外国との競争に勝つために輸出用製品と、品質の低い国内向けの製品とに二分されることになります。

国内では、深刻な住宅不足から多くの巨大団地が建てられ、その内装には家具が設置される必要がありました。市場での供給が限られたため、主に低品質の材料で作られた家具、かさばるソファ、そして独特な配色の住宅用クロスが用いられた個人住宅のインテリアは、画一化された見栄えになっていきます。

1980年代にはいるとデザイン分野、なかでも家具デザインの分野でポストモダンの傾向が現われ始めます。デザイナーは、融通の利かない、革新に懐疑的な社会主義産業に背を向け、伝統的な職人技あるいは歴史の引用によって、個人に合わせた工芸品の制作をはじめていきます。

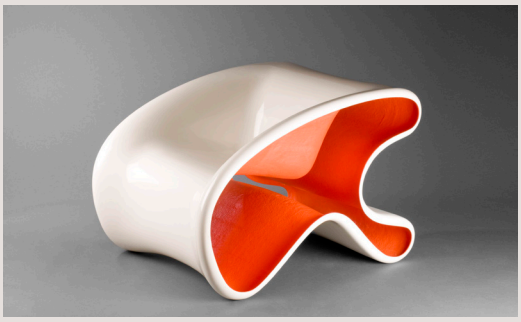
ハンドスライサー「Ideal 172」
1970–80年代
チェコ国立プラハ工芸美術館

8
1990年代から現代まで：自由化と機能の再発見

国境を開いた1989年のビロード革命はチェコスロヴァキアに自由と民主主義をもたらしました。中央集権的組織は徐々に閉鎖され、国営企業は民営化されます。しかし、民営化は多くの場合、破綻を導く結果ともなりました。今まで東側の市場向けだった輸出商品は、西側でも新しく競争力をもたなければならなくなったのです。

1990年代前半には新たな民主主義体制を代表する様式として、ポストモダンが新たな役割を獲得していきました。ポストモダンは次第にネオモダニズム（または新機能主義）に置き換えられていきましたが、そこにはチェコ・デザインの特異性と栄光、そして1930年代の機能主義の応用美術との結びつきの再現が見られます。

1999年以降、最先端のデザインを俯瞰するイベントとして毎年開催されている「デザインブロック」や、2006年に始まった、それぞれの分野の制作者に贈られる年間賞である「チェコ・グランドデザイン」など、チェコにおけるデザインの社会的意義が見直されています。



ジェリー・コザ
多機能椅子《でんぐり返し》
2002年
チェコ国立プラハ工芸美術館

本点では、以上の1920年からの現代までを横断する8章にくわえ、チェコのデザインを語る上で外すことのできない、「おもちゃ」と「アニメ」についても、テーマ展示として紹介をおこないます。

9 [テーマ展示1] チェコのおもちゃと子どものためのアート

チェコのおもちゃ作りの伝統は古く、元来は一般民衆の手作り品を起源とし、19世紀に木材加工の副産物として発展していきました。20世紀に入ってもなお、おもちゃの生産は続けられますが、社会の変化に応じて変化を遂げ、モダニズムの運動により写実的であることよりも、抽象的な傾向がみられるようになります。

チェコにおける「おもちゃ」作りにおいて、何よりも重要だったのは、子どもの空想を支え、それにより子どもの創造性も支えるということでした。

リブシェ・ニクロヴァー
《ネコのアコーディオン》
1963年
《ライオンのアコーディオン》
《キツネのアコーディオン》
1964年
個人蔵

10 [テーマ展示2] チェコ・アニメーション

戦前のチェコで初めて本格的なアニメーションに取り組んだのはカレル・ドダル（1900–86）でした。その後に、ナチスの台頭により、制作の断念を余儀なくされる時代もありましたが、チェコのアニメーションは、カンヌ国際映画祭など数々の受賞を重ねており世界的にもしられています。

本展では、ズデニェク・ミレルによるチェコ屈指の人気キャラクター「もぐらのクルテク」をはじめとしたチェコのアニメーションを上映とともに紹介します。

ズデニェク・スメタナ（美術）
セル画「苔とシダのお話」より
1968年
個人蔵

関連イベント

［講演会＋対談／講演会］

「建築探偵 チェコを歩いて日本を知る」

日時——4月11日［土］｜14:00–16:00

講師——藤森照信［東京大学名誉教授・江戸東京博物館館長］

対談——ヘレナ・チャプコヴァー［立命館大学准教授］×本橋仁［当館特定研究員］

—

「チェコ・デザインとガラス工芸」

日時——4月12日［日］｜14:00–15:30

講師——ジタ・ブロシュコヴァー［チェコ国立プラハ工芸美術館ガラス部門学芸員］

—

会場——京都国立近代美術館1階講堂

定員——先着100名［当日午前11時より1階受付にて整理券を配布します。整理券はひとり1枚のみお渡しします］

参加費——無料［本展の観覧券が必要です］

［映画——チェコのヌーヴェル・バーグ］

『ひなぎく』

日時——3月6日［金］｜18:00——｜監督——ヴェラ・ヒティロヴァー

—

『パーティーと招待客』

日時——3月7日［土］｜14:00——｜脚本・監督——ヤン・ニェメツ

原案・脚本・美術監督・衣装——エステル・クルンバホヴァー

—

解説（両日）——山下宏洋［イメージフォーラム・ディレクター］

会場——京都国立近代美術館1階講堂｜料金——520円｜定員——先着100席

配給——チェスキー・ケー｜協力——シアター・イメージフォーラム

＊映画の詳細につきましては当館ウェブサイトをご覧ください

［一日かぎりの託児サービス］

「チェコのおもちゃ箱」

日時——3月14日［土］｜10:00–18:00

2時間交代・1回あたり5名まで｜各回完全入れ替え制・事前予約制（ウェブにて）

［同時開催（4階コレクション・ギャラリーにて）］

キュレトリアル・スタディズ13

チェコ・ブックデザインの実験場1920s–1930s——大阪中之島美術館のコレクションより

会期——3月4日［水］–5月10日［日］ 7月12日［日］

［お問合せ先］

「チェコ・デザイン100年の旅」
広報事務局
–
［Nene Laco.（ネネラコ）］
担当：和田
–
〒531-0072
大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル
–
Tel 06-6225-7885
Fax 06-7635-7587
Mail art-pr@nenelaco.com